

令和5年度 第2回 学校運営協議会記録

1 日 時 令和5年10月19日(木) 9:35~11:30

2 場 所 沼津特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議委員

村本 幸雄 様 (元特別支援学校長)

池谷 修 様 (障害者支援施設沼津のぞみの里施設長)

山本 幸平 様 (原地区連合自治会 会長)

石原 厚 様 (沼津市商工会 事務局長)

草谷 修一 様 (沼特PTA会長)

芹澤 和代 様 (社会福祉法人長泉町社会福祉協議会会長)

梶浦 寛美 様 (清水町健幸づくり課主任)

(2) 本校教職員

校 長 青木 暁乃

副校長 所 康俊

教 頭 植松 隆洋

事務長 高木 伸明

小学部主事 高橋 美枝

中学部主事 村松 友余

高等部主事 田代 美紀

教務課長 山本 愛花

4 内 容

(1) 開会

(2) 校長挨拶

- ・第1回目のおかげで、地域との連携が図れるようになってきた。
- ・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症は、個人や家族内での感染はあるが、校内での流行は見られない。中学部は自然教室や修学旅行へ、高等部は高原教室などの宿泊行事が実施できている。参観や会議もコロナ前の状況に戻っている。
- ・子どもたちについても、非常に安定している。危険認知がなかなかできないお子さんたちがいるなかで、大きな事故もなく過ごすことができています。
- ・静岡新聞などに教職員のメンタル面や事故のことが出ることがある。そういったことに関しても、本校では少し疲れたり、休んだりすることがあっても声を掛けたり組織的に対応したりして支え合うことで、大きな不安を抱えて休む人はいない。
- ・給食問題も、本校では問題なく提供できているので、良かったなと思っている。
- ・特別支援教育に関して、今年の夏に、日本は分離教育をしているのではないかと勧告を受けている。その時文部科学省は、適したところに子どもがいて適した教育を受けられるようになってきていると、日本は間違ったことはしていないとの回答であった。私たちもその通りだなと考えているが、一方で、もっと地域で勉強できるよう

にしてもいいのでは、地域に出ていく方がいいのではというような声も強まっているように聞いている。特別支援学校には、センター的機能という業務があり、コーディネーターという役割の者が、地域の小中学校や必要であれば幼稚園に出向いて行って、適応するにはこうした方がいいですよといったアドバイスをすることになっている。特別支援学校ではこういう知識やこういう経験、こういう材料があるということをお子さんが地域で暮らすための助言をしている。

- ・ 障害者雇用率が来年の4月から上がる。そういう中で、障害者の方たちを採用するにはどうしたらいいかということを実際に悩んでいる企業の方もいる。また、人不足で外国籍の方を雇うこともある。そういったときに、多様な人と一緒に働くということがある。愛鷹分校の運営協議委員さんからは、自分たちの地域が、外国人の方や障害を持った方とかと一緒にになったときに、やはり百聞は一見に如かずということで、分校の生徒たちと関わった経験や生徒たちの学習の様子を見ておくと、そういうこともあるんだとか、こういうときどうしたらいいんだろうなということが地域にとって役に立つ体験となっているという話があった。そういう意味では、私たちは皆様のおかげをもって地域に出かけて学習するわけですが、地域の方たちにも多様性というようなことで何らかのことを感じていただけたら、学校としての一つ貢献ができるのかなと思う。

(3) 本日の協議会について（副校長）

- ・ 今年度御協力いただいて進行している事業についての報告と前期学校評価として職員アンケートの中での課題についての報告。
- ・ 報告のなかで課題となっているところにアイデアを出していただくグループ協議を行う。

(4) 報告

地域の参加による学習活動の実施状況について

ア 前期の取組及び後期の計画についての報告

<小学部>

①地域交流 9/5開催 20名の地域の方が参加

- ・ 各学年に2名程度入り、一緒にゲームや歌、ダンス、プレイバルーンを行った。
- ・ 何年も続けて来てくださる方は、子どもたちの成長を感じるといった感想を述べてくれた。
- ・ 子どもたちは笑顔で楽しそうに、いつもとは違う人との関わりにより、コミュニケーションや社会性につながった。地域の方は様子を知ったり成長を感じたりしていただく機会となった。

②種まき教室 【新規】9/6開催 講師：JAふじ伊豆の職員

- ・ 4～6年生がJAふじ伊豆の方と冬野菜の種まきを行った。
- ・ 外部の方に教えてもらうことが初めてで、よく見たり聞いたりしていた。

- ・種まき教室は学校運営協議会の意見から新規に実施したものの。

③町探検

- ・小5の児童が原地区のお店探しを行い、地図を作ってまとめた。
- ・その他にも、自動販売機や公園へも出掛けさせてもらっている。
- ・後期は、運営協議委員さんの協力を得て、さつまいも掘り交流（1～3年）や長泉のサークル「ベルマン」によるハンドベルコンサートを予定している。
- ・地域の人と関りながら活動できることが良い。地域の人とじっくり関わりたい、もっとたくさん関わりたいという意見も教員からあがっている。活動を詰め込みすぎず、じっくりたくさんゆったり関わりたい。来年度もよりよいものにしていきたい。

< 中学部 >

- ・園芸班 原地区センターで、地域の人と花壇作りを行った。花の植え方を愛鷹広域公園の職員から教わってから花壇作りに取り組んでいる。今年は、市制100周年のイベントと絡めて、地区の方が準備してくれ、完成度が高くて嬉しかった。学校や保護者以外の方と関わる機会となり、「ありがとう」と言われることで達成感や貢献したという気持ちが育った。
- ・後期は小学部と一緒に、ハンドベルコンサートを予定している。
- ・作業学習に関して、紙工班が紙すきでの富士山メモ帳作成をしている。教師も専門ではないため、紙すきに専門的な知識をもっているかたに教わりたい。また、縫工班では染めたりミシンを使ったりして布製品を作成している。染めについて専門的な方や生徒と一緒にミシンで縫っていただける方がいるとよい。
- ・これまでアスルクラロの選手が来てくれてサッカーを教えてもらっていたが、今年度から有償となってしまった。サッカーを教えてくれる方を探している。
- ・園芸班と校内の花壇で一緒に花植えをしてくださる方、生バンドの演奏等音楽的なことを行ってくれる方なども心当たりがあれば教えていただきたい。地域の方と繋がれるチーム沼特であればと思っています。

< 高等部 >

- ・1年生は学校周辺と沼津、2年生は県内、3年生は全国について学びを進めている。
- ・1年生は、学校運営協議会で紹介いただいた場所で実施した。護国寺で説明を聞いたり座禅体験をさせていただいたり、生徒は楽しんで学ぶことができた。また、鈴木園では実際にお茶を入れる体験をした。
- ・原・浮島ふるさと夏祭りに参加し、地域の方と販売を中心にかかわりをもつことができた。休日だったが、生徒たちもたくさん参加した。茶もみ体験もでき、優しく教えていただいて、販売だけではなくかかわりをもつことができた。また、沼津市の福祉まつりにも参加した。販売機会が増え、いろいろな方々と関わる場

面が増えた。

- ・学校運営協議会で紹介いただいた方に陶芸の指導を受けることができた。技法を教わったことで、生徒も柔軟な発想で新しい作品づくりに取り組むきっかけになっている。
- ・後期は、赤い羽根共同募金へボランティア部の参加、クリーンサービス班で地域の施設での清掃を行う。校外へ出て地域の清掃を行うということで、しっかり力をつけたいと、自分たちで検定を行い、作業技術向上に取り組みながら地域の清掃をすることを楽しみにしている。市内クリーン作戦への参加も考えている。
- ・教員たちも自分の足で地域を歩いて学習場所を調べているが、運営協議委員さんとのつながりがあったからこそ、生徒に合った場所を紹介していただくことができ、地域の方のすごさを実感する機会ともなった。
- ・地域のイベントには今後も参加していきたいが、生徒数が減ってきたので参加することが難しいかもしれないという意見が出てきている。参加の仕方のバリエーションを増やしていきたいと思っている。新たなアイデアがあれば、一緒に考えていけたら嬉しい。

<委員から>小中学部のハンドベルコンサートは、夏休みごろから打合せをさせてもらっている。曲が決まってきて、クリスマス曲、にじ、パプリカ、校歌を演奏する。パプリカは、子どもたちに合いの手を入れてもらうように小学部へお願いしてある。校歌（ドリーム）の楽譜を送ってもらい編曲してもらった。演奏してとてもいい曲だと感じた。当日は中学部のあとに小学部が実施する。多くの方に聴いてもらいたい。

<会長>各学部の報告から地域とのかかわりがたくさん生まれていることがあり、嬉しく感じた。

イ 地域連携に係る前期学校評価についての報告

<副校長>

- ・Q11：88・7%が達成できていると評価しているが、運営協議会の活動がよく分からないという意見もあった。どんな人がいてどんな支援をいただいているかということが浸透していない。
- ・Q13：地域交流も含めた交流の状況を保護者や地域に紹介していることについても、評価は高いが、できていないというような評価も見られる。
- ・Q15：（1）の報告にもあったように、地域の人・モノ・ことを活かした学習を地域の人から支持を受けているという評価が多いが、まだ達成できていないという意見もある。
- ・具体的に何をしたらいいかということを感じている。具体的な事業を取り組んで計画していこうというところでは行っているが、その魅力や効果というものをみんなで共有する、紹介していく工夫が必要だと感じる。

- ・教育活動へのメリットをより理解し合えるように、こんなことをしたらいいのではという意見をいただきたい。

<会長>学校評価が AB の高いことが多いが、自分の所属する学年で実施していないとできていないとする人と、学校全体をみてできていると評価する人という。この会がどんなことをしているか、どんなことができるかを少人数に分かれて、色々と思うことを口に出し、いいアイデアを出していければ。

<委員から>評価者の職員の人数は？

<副校長>回答は 97 人。回答対象は、教員のみなので 100 人程度である。

(5) 協議等「協議会と活動内容を校外外に紹介する工夫について」

ア 少人数グループ協議

(ア) 校内で保護者や教職員に学校運営協議会の活動を伝えるには、どのような方法・媒体が効果的でしょうか。

(イ) 地域の方々に学校運営協議会の活動を含め本校についての理解を深めていただくには、どのような方法・媒体が効果的でしょうか。

イ 提案等の共有

<Aグループ>

- ・前期評価では、運営協議会の目的が職員に周知できていたのか。そういったことも評価に関係してくるのではないかな。
- ・学校運営協議会が前面に出なくても良いのではないかな。子どもたちにスポットが当たるように、活動のPRをしていくことが大事。活動を行い、評価され、“やった!!”という思いをみんなが得られるように。
- ・ホームページはあまり見ないのでは。静岡新聞の記事にしてもらうには、取材内容も大事。ただ“活動を行います、取材してください”では来てくれない。
- ・個人個人が窓口になっているために、どこにどう相談していったらよいか分かりにくいので、学校や学校運営協議会に窓口を立てて、分かりやすくしたらいいのではないかな。

<Bグループ>

- ・まずは、PTA役員会で情報を共有するのはどうか。
- ・ホームページやPTAの会報誌（風）に掲載する際には、見てもらうように呼びかけをする。同様の内容を、回覧板で回してもらう。
- ・それぞれの立場でアピールしていく。
- ・地域も横のつながりが薄く、また本校から様々な要望を出しているが、窓口が分かりにくいという話もあがった。回覧板でまずは原地区に知ってもらおうとよいのではないかな。

< Cグループ >

- ・学校新聞のようなものに、学校運営協議会の活動の特集記事を書く。新聞社等への記事提供とホームページに運営協議会を特集してもらう。新聞社等へのよりよい投げかけの仕方なども教えていただいた。
- ・新聞社へは、取材に来てもらいやすいように、伝え方を工夫する。
- ・地域の方へは回覧板に載せる、一歩学校に来ていただくこと、メリットやお得感を持ってもらう、会場の展示などでも学校を知ってもらえるのでは。
- ・QRコードをつけたチラシを銀行やスーパー、ドラッグストア等に貼ってもらう。小さなカードを置いておくことできるところもある。
- ・SNSの活用を。ネットの利用ではLINEは40代以上、20代30代はTwitterなどが効果的。
- ・清水町はゆうすいポイントというものがある。そういったものと連動させてお互いにPRをしていく。

< 会長 >

- ・具体的にどういったことができるか。学校運営協議会の目的、成果を簡潔に表せるようなポスター発表などしてもよい。どういう経過をたどってこの成果が出たということを職員へ説明をしていくとよいのではないか。
- ・沼特の重点課題の「つながり」を生み出すための重要な場に学校運営協議会があると感じた。

(6) 今後の学校運営協議会の予定

- ・学校参観：10月26日～12月11日

じっくりと子どもたちの様子を見てもらい、個別に話を聞く機会とする。理解を深めてもらい、今後につなげていただきたい。

- ・第3回学校運営協議会

令和6年2月1日（木）

第2回コンプライアンス委員会も併せて行う。

(7) 閉会

< 校長 > 本日はありがとうございました。取組に関心をもったり応援したりしてくれる人が地域に多くいてくださり、学校だけではないんだと覚えることが本当に心強い。心よりお礼申し上げます。